

第12回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和6年11月6日(水)

開催時間 午後4時00分から午後4時52分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 降旗 友宏
教育長職務代理者 長澤 重俊
委員 橋本 幸子
委員 相浦 陽子
委員 小澤 幸子

出席職員 教育次長 信田 恭央 教育企画室 伊藤 宏紀
教育監 荻野 智夫 働き方改革推進監 内藤 京
教育監 秋山 克也 室長補佐 土屋 雅崇
副参事 矢崎 孝一 主 幹 今村 睦美
総務課長 望月 勝一 副主 査 深澤 和仁
教育企画室長 岩出 修司 特別支援教育・児童生徒支援課 課長補佐 新井 淑水
福利給与課長 永井 研一 生涯学習課 主任 藤田 秀文
学校施設課長 功刀 美奈子 主 任 小池 涼子
義務教育課長 小池 孝二 総務課 課長補佐 藤田 秀文
高校教育課長 渡邊 英裕 課長補佐 小池 涼子
特別支援教育・児童生徒支援課長 玄間 修子
生涯学習課長 古屋 明子
保健体育課長 花輪 孝徳

傍聴人 0名

報道 1名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

松坂委員から都合により会議を欠席する旨の届出があった。

1 議 案

第25号 令和7年度山梨県公立高等学校等入学者募集定員について

[説明] 教育企画室

小澤委員 桃花台学園は人気があると聞いていますが、希望者に比べて定員が少ないということはないでしょうか。

玄間課長 希望者と定員はほぼ同数であり、希望は満たしている状況にあります。

【原案どおり決定】

2 報告事項 な し

3 その他報告

(7) 「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について

[説明] 特別支援教育・児童生徒支援課

- 長澤委員 調査対象について教えてください。
- 玄間課長 全国の都道府県及び政令指定都市を対象に毎年文部科学省が実施している調査になります。公立だけでなく、国立と私立も調査対象になっております。
- 橋本委員 いじめの認知件数はかなり多いですが、解消率も100%近くあるということで、初期的な段階から取り組んでいただいている成果が出ているのではないかと思います。早めの対応がいかに重要であるか分かりました。また、いじめの発見のきっかけはアンケート調査によるものが一番多いですが、担任の先生による発見が意外に少ないと思いました。小学校は特に少人数教育により担任が子供一人一人の変化に気づきやすくなっていると思いますので、アンケートの結果を待たずに担任の先生が発見できるようになれば良いと思いました。
- 玄間課長 少人数教育によって担任の目が届きやすくなっているとは思いますが、担任の目が離れた際にいじめが起こっているケースもあると聞きます。今年度は、山梨県学校教育指導指針において子供のSOSの出し方に関する教育を掲げており、子供からの訴えやアンケートによる声を逃さずに、小さい段階でSOSをキャッチしていく取り組みを積極的に実施しております。
- 小澤委員 12ページにある児童生徒の相談状況という項目ですが、小学校では「誰にも相談していない」が上位に入っていますが、中学校や高校になると入っていないのは相談体制が整備されているということでしょうか。
- 玄間課長 中学校、高校において「誰にも相談していない」が上位に入っていないのは、子供のSOSの出し方に関する教育の成果があったのではないかと考えております。
- 小澤委員 SOSの発信先として友達もあつたりするのでしょうか。
- 玄間課長 はい、友達へのSOSもあるようです。そのような場合、相談された友達が次にどのように信頼できる大人へつなげていくのか等についても、SOSの出し方に関する教育の中で実施しております。
- 橋本委員 SOSの出し方を子供に指導していくことは大事だと思います。もしかしたらアンケートにも書けない子の中で重大なケースがあるかもしれないので、担任との関わりなどSOSを出しやすい環境づくりが必要だと思います。
- 長澤委員 企業では心理的安全性とも言われていますが、言っても大丈夫だという環境づくりをすることが大事だと思います。
- 小澤委員 14ページにある不登校児童生徒について把握した事実ですが、複数回答にしたのは良かったと思います。不登校理由は1つだけではなく複数の要素が絡んでいることもあると思いますので、複数回答にすることで関連性が見えてくるのではないのでしょうか。
- 長澤委員 私も複数回答は良いと思います。その上で原因についてももう少し掘り下げることが必要ではないかと思います。例えば不登校児童生徒について把握した事実として回答理由が一番多かった「学校生活に対してやる気が出ない」については、学校側の問題かもしれないし、家庭または生徒側の話かもしれないし、なぜなぜと深掘りすることで原因がはっきりしてくるのではないかと思います。
- 教育長 委員がおっしゃるように複数回答にしたことは良い方向性だと思います。1つの事案に対する回答が複合的になっているとは思いますが、分析することでよりはっきりと不登校の原因が見えてくるのではないのでしょうか。

橋本委員 学校生活に対してやる気が出ないというのは学校自体が子供にとってどういう場所なんだろうかと思ってしまいます。この調査回答は学校の先生が答えているようですが、先生側からすれば子供が勉強についていけなくて嫌になってしまい、学校生活にやる気が出ないと考えるかもしれません。

小澤委員 同じ質問を当事者の方にもしているのでしょうか。

玄間課長 この質問と同じものではありませんが、6月に不登校の当事者、当事者の保護者そして教員を対象に調査したものが 있습니다。その時も生活のリズム、学業、交友関係への不安という3つの傾向が出ていました。子供たちを見る視点として、体調の不安や不良が続いていたり、いつもより元気がなかったりといった変化に早めに気づく必要があると思いました。

教育長 先ほど担任による発見が少ないという話がありましたが、本県は少人数教育を推進しているので一人一人へのきめ細かな関わりの中から早期発見につなげていきたいと考えております。またSOSの出し方の教育については、県内すべての学校で取り組んでおります。SOSの出し方も大切ですが、受け止め側の対応も非常に重要であります。受け止めるのは、先生だけでなく友達の場合もあると思いますので、子供達がSOSのサインを見たらどのように行動することが望ましいのかといった教育についても引き続き力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

小澤委員 最後のページの不登校児童生徒数の推移ですが、令和2年のコロナ禍あたりから上昇傾向になっています。少しでも体調が悪い場合は学校に行かなくてもよいという時期がありましたが、そのことにより学校を休むことについてハードルが下がったような気がします。

玄間課長 文部科学省においても委員がおっしゃった通りの分析がありました。

小澤委員 コロナ禍で楽しかった学校行事が中止になり、学校へのモチベーションが下がったということもあると思いますが、少しずつ以前の学校形態に戻ってきていると思いますので、学校への意欲も戻ってくればよいなと思いました。

【 了 知 】

(8) 山梨県図書館協議会委員の公募について 〔説明〕 生涯学習課

教育長 2月1日からの2ヶ月間は山梨県図書館協議会委員はいないということになりますが、支障はないのでしょうか。

古屋課長 委員が出席する協議会は今年度は終了しております、最後に報告書を提出して任期を終える形になります。空白期間があっても支障はありません。

小澤委員 委員の仕事は、年2回の協議会への出席と報告書をまとめることでしょうか。

古屋課長 はい、そのとおりです。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上